

A 1 コンブの粘質物について—電子顕微鏡による形態学的研究—
広島女学院大短大 ○ 奥田弘枝 広島大原医研 佐藤幸男

目的 コンブは海藻の中でも食用法の幅が広く、消費量も多いが、その組織や化学成分の存在状態についてはあまり明らかでない。コンブの成分の中でも粘質物は煮だし汁への影響を始め、食味に大きく関係するものの一つである。本報では粘質物の存在場所と分泌、貯蔵、排出等に関係する組織器官について、形態学的面から明らかにしたい。

方法 材料は神戸市垂水区舞子の浜で養殖したマコンブ (*Laminaria japonica*) の葉状部 (葉体長 195 cm) を用い、常法に従って光顕、電顕用標本を作製して観察に供した。

結果 1) 最外層の細胞壁の表面には、粘液腔道から分泌された粘質物が何層にもわたって積重なっている。

2) 網目状に発達した粘液腔道には、粘質物が貯えられており、トルイジン青染色によって、粘質物の充満度の違いが判別出来る。

3) 粘液腔道に隣接する分泌細胞は、クロロプラストが退化し、ゴルジー体が発達して、粘質物を分泌する細胞としての機能的分化が見られる。